



## それでもまだプルトニウムを取り出すのか

六ヶ所再処理工場では操業開始に向けて試験運転が強行されました。しかし、高レベル放射性廃液をガラスに固める工程で、ガラス溶融炉の底に金属が溜まるトラブルが多発。棒でかき回すという場当たりな対策は、棒がひん曲がって抜けなくなり、さらに耐火レンガが脱落するというおそまつさ。炉の補修のため取り外した配管から高レベル廃液が漏れる事故も起こりました。フランスから技術導入した再処理工場の中でガラス固化は数少ない国産技術で、未完成なのです。欠陥が明らかになった以上、設置許可は取り消されるべきです。再処理工場は、原発一年分の放射能を一日で放出すると言われるほどの汚染を引き起こします。青森の農産物や三陸の魚介類が、再処理工場の本格稼働で汚染される前に、計画を見直すべきです。

そもそも再処理工場の操業目的は、使用済核燃料からプルトニウムを分離・抽出することですが、やっかいものでしかないプルトニウムを取り出しても意味はありません。

「再処理工場を断念すれば、使用済核燃料プールが満杯になり原発が運転停止に追いこまれるのではないか。一度決めた再処理・プルトニウム利用路線は何があっても見直さない。」これが国と電力会社の考え方です。果たしてそれでいいのでしょうか。答えを出すのは、私たちです。